

私は鉄槌の戦士  
ベルマリア

自慢じゃないけど  
力では誰にも  
負けないと思うよ

ベルマリアに  
続け!

団長遅えっす

でも決して  
無敗じゃない

あいつが前に  
出過ぎだよ!!



駆け出しの頃：  
不意打ちに  
対処  
出来ず  
負けた

捕まった私は  
凌辱の限りを  
尽くされた

穴という穴が  
全て汚され：  
魔物の吐き出した精で  
満たされてしまった





負けたくない  
折れたくない  
こんなところで  
終わりにたくない

魔物の慰み物となる  
日々を耐え続け  
いつか逃げ出す日の  
ことを思い続けた

魔物共のスギを  
見て逃げ出せたのは  
それから一年後

同じ土地にはいられず  
新しい場所でも私は  
戦士として再起した...

しかし...

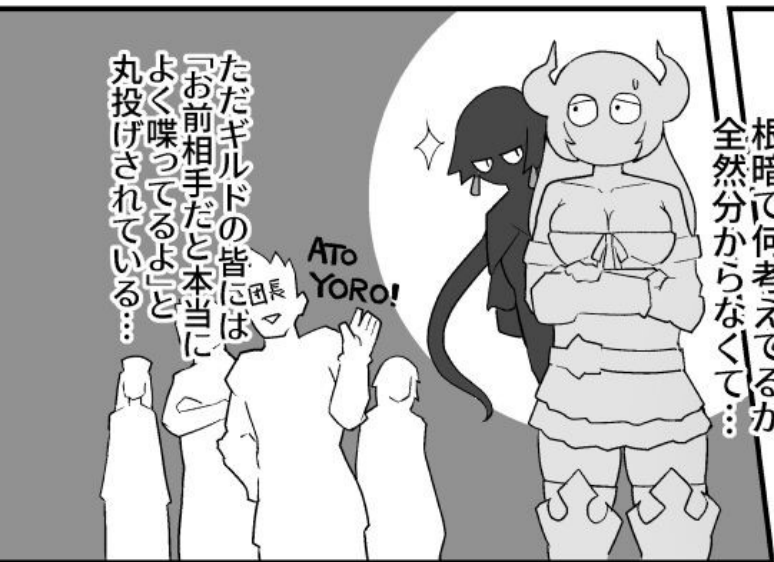
はっ...

やっ

やだ

あ







…だつたら何!!  
言いふらす気!!?  
何が目的なの!!

魔物に敗けて  
犯されたとか?

びん

ハッ



でも身体が忘れてない  
力づくで組み伏せられ  
犯された快感が…

そんなつ…  
こと…ない…

フワ

ハッ



…んちやんちやんち  
掻き回されて…

泣いても叫んでも  
やめてもらえなくて  
心が壊れそうなのを  
必死で耐え忍んで…

びん

ゴゴ

ゴゴ





貴女の意識が散漫に  
なっていたことは  
皆が気付いていた

悪あがきで投げ  
つけられた棍棒を  
貴女はあわてて  
全力で弾いた



弾いた棍棒の  
行き先にまで  
気が回らず…

よりもよって  
療術師に直撃

依頼を放棄して  
逃走せざるを  
得なかった



メンバーの一部からは  
「ベルマリアの除名」  
という声も上がっている

皆分かっているのよ  
次はケガじゃ済まない

それも…  
貴女以外の誰かが

それを私が何とから  
出来るって言ったら  
どうする？

チヤレ…



なぜ嘘をつく  
必要があるの？

ほ…本当に？

私たちは……  
…仲間よね……？

ズ

ズ

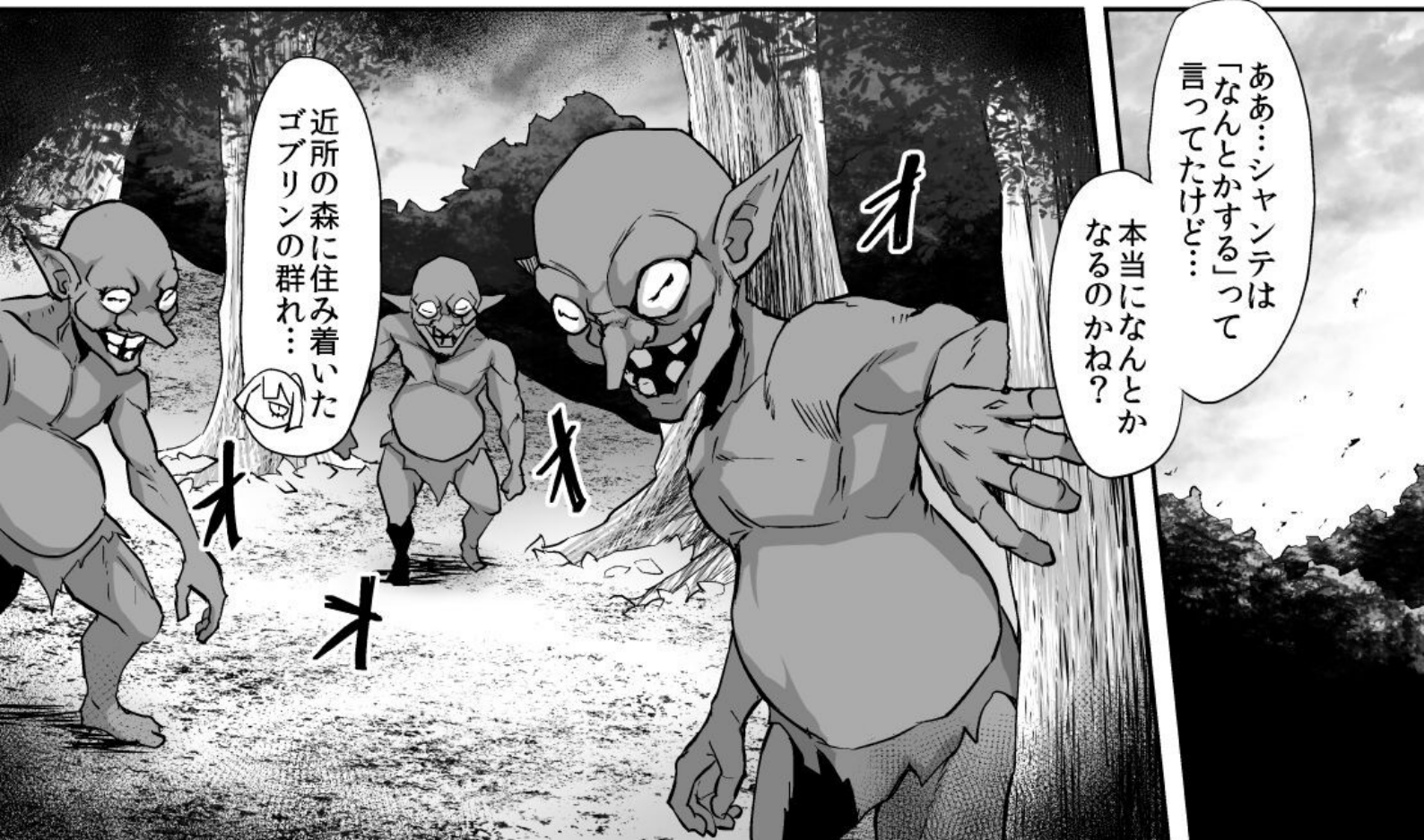
ズ

ズ



あれ？  
ベルマリアと  
シヤンテは？

2人で朝早く  
討伐依頼受けて  
出かけてったよ  
すごい簡単な  
依頼だったけど



ああ…シヤンテは  
「なんとかする」って  
言ってたけど…

本当になんとか  
なるのかね？

近所の森に住み着いた  
ゴブリンの群れ…

オ

オ

オ

オ



当然ッ！素手  
でも余裕だよ！

この程度の  
相手：  
貴女なら目を  
つぶつても  
勝てるわよね



おっ!?  
ガッ!

では試してみましよう  
あえ?

ガッ!  
ガッ!  
ガッ!  
ガッ!  
ガッ!



ダメツ  
引つ張つたら…

グイッ

ぷるんっ

なんでっおかしいツ  
こんな相手に私ツ…!?

ああっおっぱい  
見えちゃっ…

シヤンテツ  
シヤンテどこ!?

ホントにヤバい  
からあつ!!

くぱあッ

ああっ!?





押し返せ…  
なああ…ッ

ビビッ

シヤンテ助けてっ!  
見てるんでしょ!?

ホントに  
犯され…あッ♡

やっあ…♡

ゲゲゲ

ムンッ♡

ギイッ

チキ

ずん

ビクッ

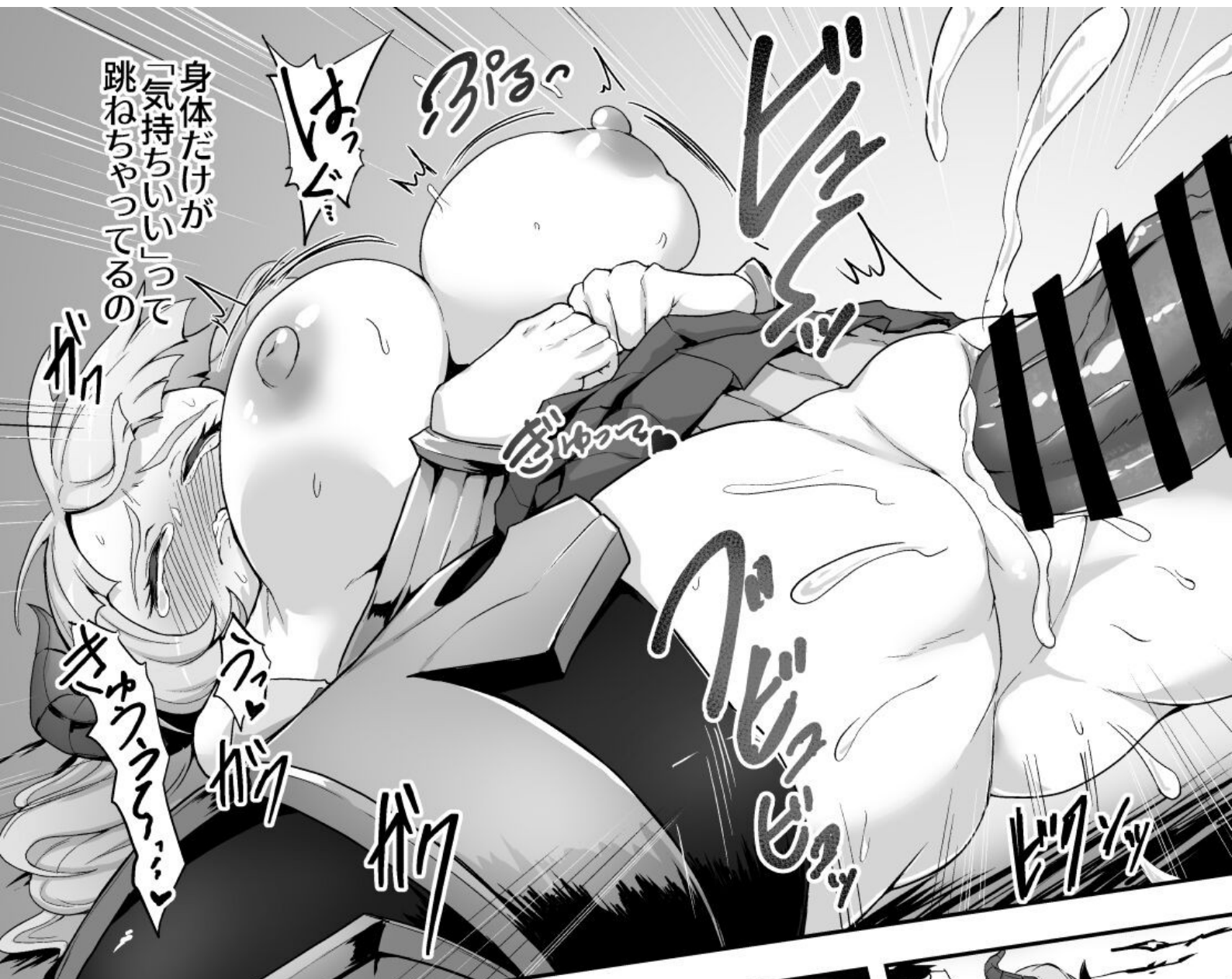
ブルッ

ビクッ

ぷる

ぷる





身体だけが「気持ちいい」って跳ねちゃってるの

ビョッ

ビョッ

ビョッ

ビョッ



こんなの私じゃない絶対に間違ってるの...間違ってるの...

間違ってるの...間違ってるの...



ハッ

ハッ





そんなもの  
惨めすぎるよ...

アッアッ

ドクドク

ドクドク

ドクドク

ドクドク

ドクドク

ドクドク

ドクドク

...あれ?

ブル

ブル

キキ

アッ

もう...  
離してっ!!

キキ

アッ





その首輪の効果  
なんだけれど...

急に力が  
戻ってる...

どういう  
ことなの...

お前ッ!! 見てたなら  
助けるよ何なの!?

...手で隠してないで  
服を着直したら...?

いや、その... 乳首...  
立っていると... 着れ  
なくて...

ちよつとあつち  
...向いてて...  
引つ込めるから...

私が魔力を込めた分だけ  
装着者を世界最弱の生き物  
に変える呪いなのよ

先言えッ!  
いやつ言つたから  
いい訳じゃないッ!

ふに

むにゅ

カア...

助けて



最近のベルマリア  
戦闘中に謎にポーッ  
とするの減ったよな

それでその2人は？

今日は街外れに  
出たワールフ  
の討伐だったか…

何でもいいけど  
解決するなら  
いいことだよ



シヤンテえ！助けてえ！  
これホントにダメだったて！

食べられちゃう！  
食べられちゃうからあ！！

あつあ…

殺さないで…

精子ッ精子いっぱい  
出しているから…

もつと気持ちよく  
するから…ね…？

ぽろっ  
ぽろっ

ぷちゅ…







あっ♡

シャモンテ〜

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

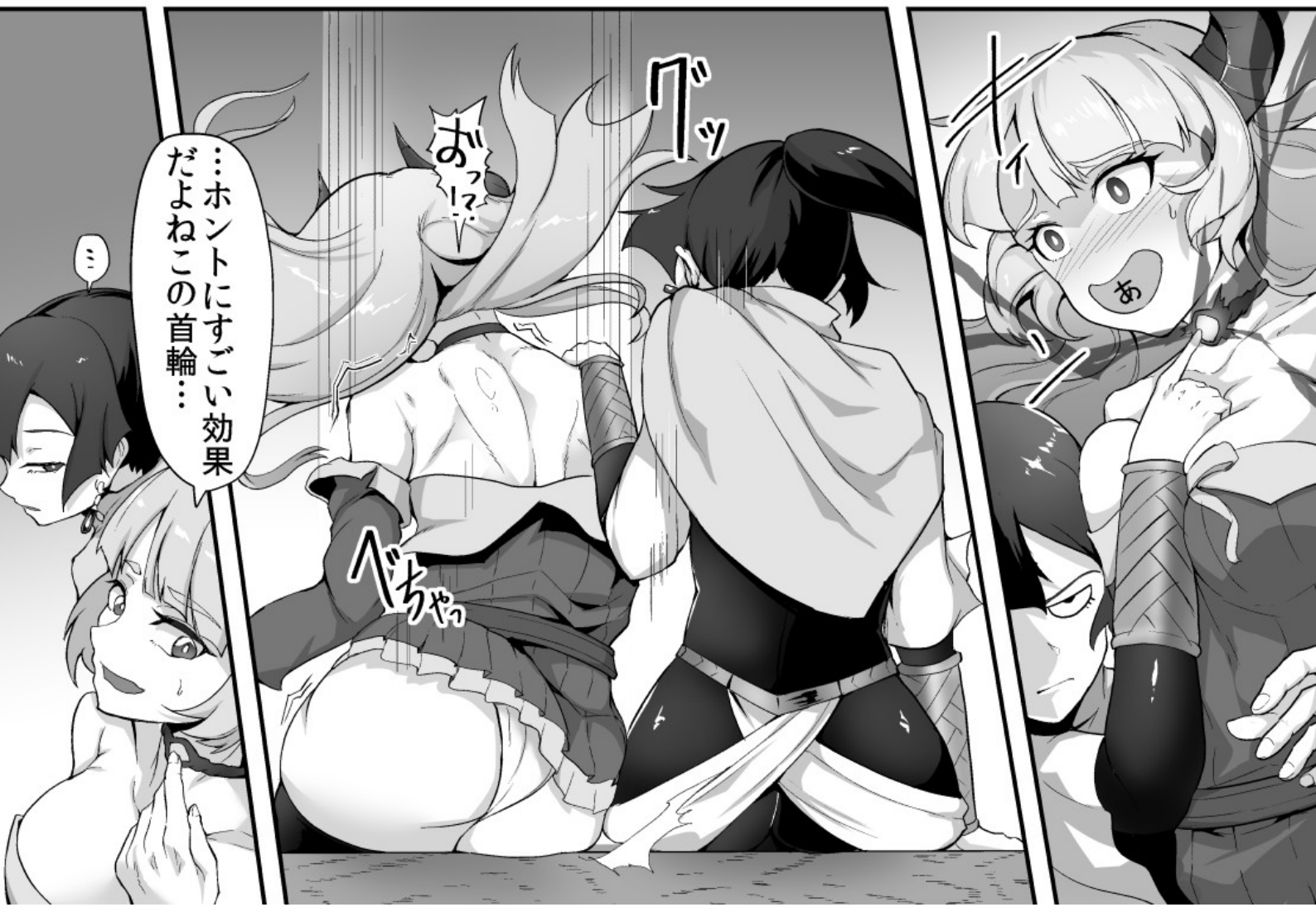


いいよ...  
シヤンテなら  
なんつて! えへ♡

ぶい  
ぶい

飲んでるう?  
逆におっぱい  
飲む? 逆って!  
ギャハハッ!

一人で飲んでても  
つまんないじゃん!  
友達私しかいないの?



ホントにすごい効果  
だよねこの首輪...

おっ!?

グッ

へちや

あ



ベルマリア  
最近はドラゴン討伐の  
準備で忙しかったものね

ブルツ

るんっ  
はん？



少しは「解消」したい  
方がいいんじゃない

カバツ

ちと...

待つてシヤンテ  
これはシヤレに  
なつてない...

貴女...

毎回盛り上がって  
くると「助けて」って  
叫んでるけどね...

あれ本当に  
気分悪いから  
やめて

服が…  
や…

パキッ

仲間を魔物に  
わざと襲わせ  
てるのよ？

万が一が起こらない  
予防ぐらいしてるに  
決まってるでしょ

分かったから  
離して…よ…

バサッ



お願いっ  
これはシヤレに  
なつてない…  
あっ?!

分かつたから…  
ごめんん!?!

ドゥ

ギョウ

ビュッ



あっ…はっ

見ないで…



団長は弾いてる間は  
手元しか見てないわよ

ギョウ

ビュッ

くちゅ

くちゅ

じゅん

くちゅ

あっ

ビュッ

私の友人が貴女  
しかいないって？  
からかわないで

貴女にとつては  
私は沢山いる内の  
一人だものね：

声抑えて  
流石にバレ  
るわよ

ちが：私  
だつてえぐっ♡

ギョッ

キゅるるる

ふんふん♡♡♡

キョッ♡

キョッ♡

キョッ

キョッ♡

キョッ♡

キョッ

キョッ

キョッ♡

キョッ♡

キョッ♡

キョッ

キョッ

プル

プル

プル

プル

プル

プル

プル

プル

プル

プル

プル

プル

プル

プル

プル

プル

プル



あれ？  
ベルマリアまで  
酔い潰れたの？

ドキッ

コイツの肩出し服  
この角度だと全裸に  
見えるよな笑

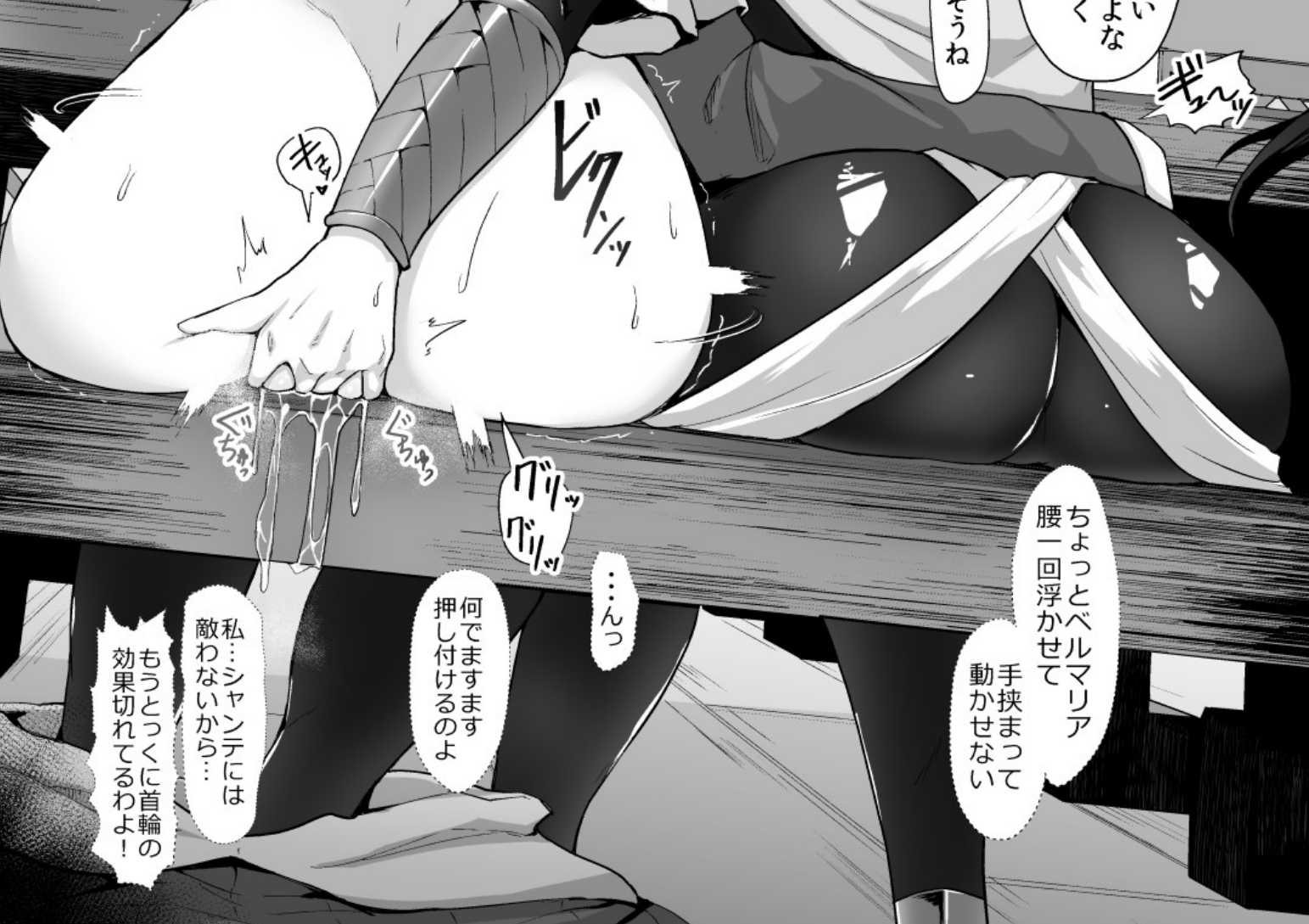
下品な冗談ね  
あっち行って

へいへい

しかしお前らしい  
コンビになつたよな  
これからも仲良く  
やってくれよ

…そうね

ギョッ



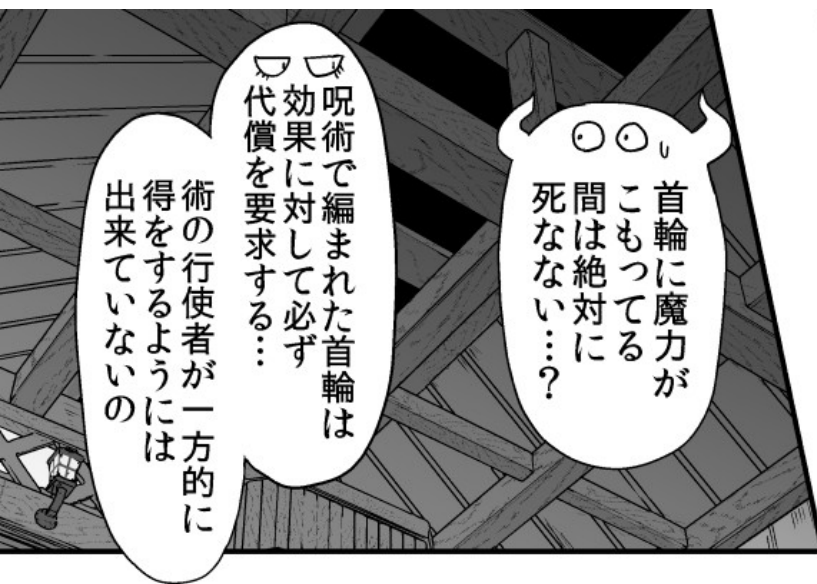
ちょっとベルマリア  
腰一回浮かせて  
手挟まつて  
動かせない

…んっ

何ですますます  
押し付けるのよ

私…シヤンテには  
敵わないから…

もうとっくに首輪の  
効果切れてるわよ！



…もう一回だけ

は？

ごめんなさい

首輪に魔力がこもってる間は絶対に死なない…？

呪術で編まれた首輪は効果に対して必ず代償を要求する…

術の行使者が一方的に得をするようには出来ていないの



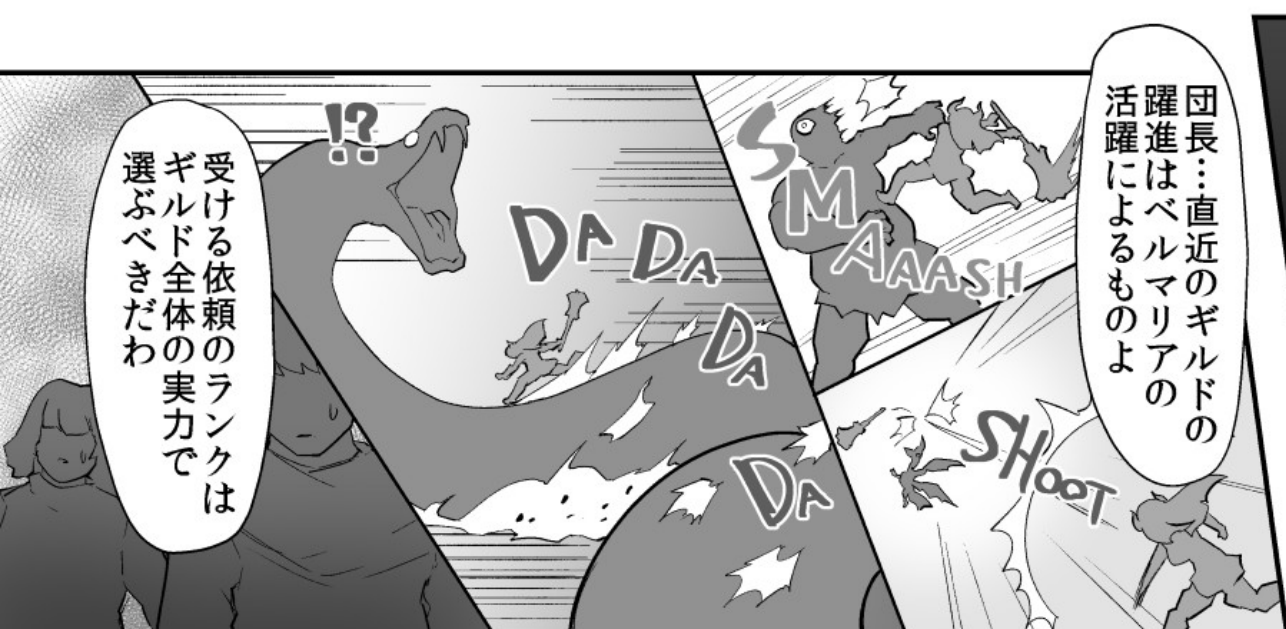
ああ…せっかく弱らせてもその相手が無敵になつたら何の意味もないってことか

その欠陥を利用して今とは別の治療計画を練っていたのよ…

それが性行為に恐怖するどころか期待して犯されに行くとは…失敗…

はっ半分はお前のせいだと思う!!

カッ



団長…直近のギルドの躍進はベルマリアの活躍によるものよ

受ける依頼のランクはギルド全体の實力で選ぶべきだわ



何言ってるの!  
今が稼ぎ時じゃん!

ベルマリア  
貴女ね…

まあまあ  
ベルマリアも  
こう言ってるし…

バンッ



貴女に何かあったら  
今のメンパーは誰も  
貴女の助けになれない

心配しすぎだよ  
シヤンテは  
シヤンテのおかげで  
私今までに  
調子がいいんだ



今なら誰にも  
負ける気が  
しないから



強力な  
溶解液!?



武器も  
溶かされた…



ベルマリア…

シヤンテ逃げよう!  
もう私達しかいない!

ズザッ



こいつは私達も  
逃さないつもり  
みたい

とにかく防護の  
魔術だけでも...

シヤンテ  
危ないっ!!

ぐっ!!?

溶っ

早ッ...!?

グッ

グッ

ドッ

ドッ



輝きよ！我らの  
身を纏いて護れ！

ダイヤモンドスキン  
金剛鎧皮！

服分

バシッ

アイ  
アイ

ア

ア



ありがと  
シヤンテ...

術が効いている内に  
なんとか脱出を...

あっ!?

ベルマリア！  
離れないで！  
術が維持出来ない！

ア

ア

ア

ア



アッアッアッ

アッアッアッ

グッ

グッ

ズッ

ズッ

シヤンテツ  
大丈夫ッ?  
私はあ...ッ  
慣れてるけど...  
へへ...あッ

バカッ...言っ...  
ないで...絶対...  
離さないで

溶解に耐えるので  
精一杯なのッ...  
我慢してて...! あッ

ドク

ズッ

ドク

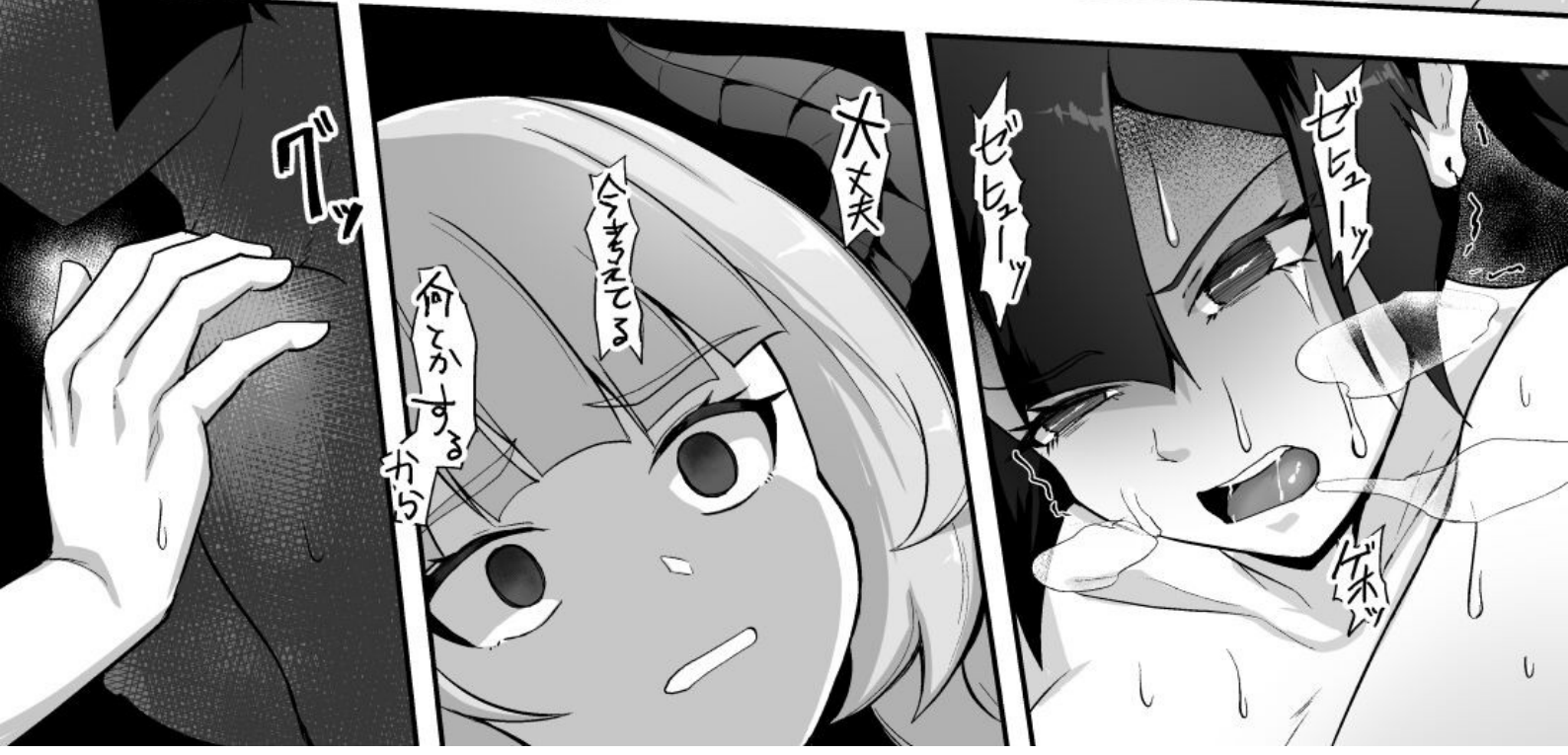
グッ

ズッ



シヤンテ平気?  
どうしよう...  
このままじゃ...

この化け物...  
私達を中から  
消化しよう...



何とかならずから

大丈夫



ゼッ

ゲムッ

離すなって  
言った…!!

バカでしょシヤンテ!?!  
この術って維持に  
どれだけ魔力使うの!?!

私は見捨てて!  
一人ならなんとか  
なるかもだから!!

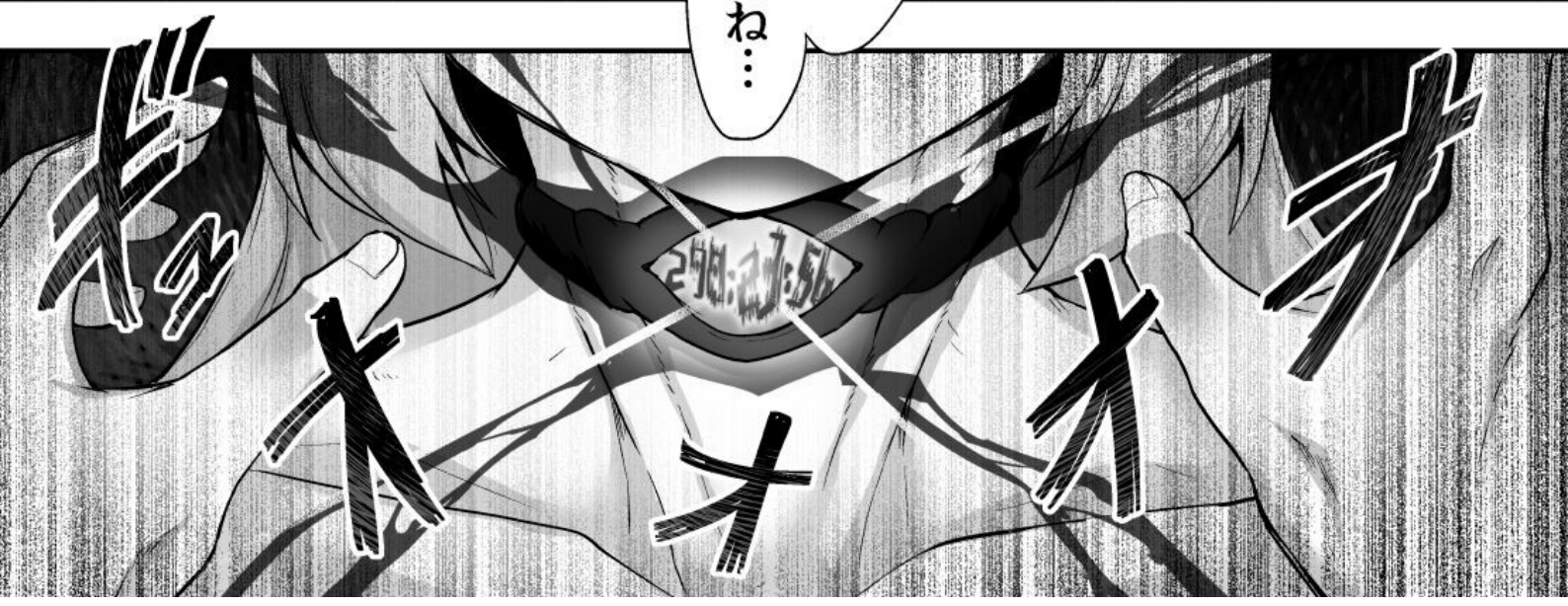
嫌よ…

嫌って何!?!  
シヤンテは  
魔術師でしょ!?!

何でも出来る!  
私のことだつて  
これまでずっと…!!

一人だけでも  
助かって!!  
お願い!!







何…してるの…  
これじゃ私何もつ  
シヤンテ!?

は？



首輪の効果  
忘れた？

魔力を込めた時間だけ  
弱体化する代わりに  
絶対に死にはしない

ちよつと!?何言つて  
んのふざけないで!!

ありつたけ込めた  
から1年は保つ

これだけ凶悪な  
魔物：きつと誰かが  
討伐に来てくれる

ドギャッ  
ミニ

シャンテッ!  
自分を守っ  
死んじやうっ

誰も来なくて  
ムダに苦しみを  
伸ばすだけかも  
その時は私を  
恨みなさい

ドロッ

アッ  
ハッ

魔物に犯されて  
喜んでる貴女は  
滑稽だったわ

…そうだ  
私貴女のこと  
嫌いだったの

シャンテッ  
まへへ  
ドギャッ

死んじやうっ

ドギャッ

おっ  
おっ

おっ  
おっ

アッ  
アッ

ド  
ド



：貴女が後遺症に  
苛まれていたのは  
すぐに気付いた

酷似する症例を  
いくつも知って  
いたから…

ベルマリアの様子は  
どうだった？

最悪…退団も  
ありえるか…

それが  
滑稽でね

少しいじめて  
やろうかと思っただけ

彼女の退団は  
待つてください

私の話を聞いて  
いただけませんか

え？いやまだ  
そこまでの  
話では…

彼女の散漫さは心因性です  
それだけを何とかすれば  
彼女はギルドの最大戦力です

私が彼女を  
何とかします

ベルマリアは  
私が治します！

落ち着けて…  
でもまあ治せる  
ならありがたいよ

本当に…  
それだけ

それにしても  
シヤンテ…



ゴク

ぶっぐ

ブッブッブッ  
ブッブッ  
ブッブッ

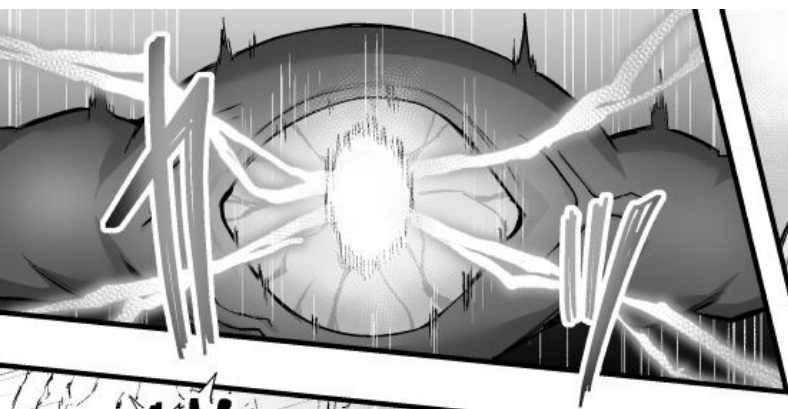
ゴク

ベルマリアのことだと  
本当によく喋るよな

ゴク  
ゴク  
ゴク  
ゴク  
ゴク  
ゴク  
ゴク  
ゴク  
ゴク  
ゴク

シヤンテツ!!

三



嫌いなんで嘘ツ！  
そんな人を命懸けで  
助けるわけ無いツ！！

ギョウウウウ



馬鹿ね…首輪の  
呪いに抗うなんて…

嫌アああ！！

ブルウウウ



嘘ツ！私は好きよ  
シヤンテのこと！  
言って！



さびし…くら…  
しずかに…してよ  
そういうところも  
…きらい…

ヒュー

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ



ドブ...

私は鉄槌のベルマリア！

力なら誰にも負けないッ！！ 重荷なんて無いッ！

こんな時まで 思い使うなあ！！

それぐらい 持たせて！



あぁ... げん...

やぱり好き... かも...



嫌がッ!!

離してッ!!

なんだよお...  
「かも」って...



あッあ...

ボ  
チ  
ャッ



あッ!?

グ  
パッ

グ  
グッ

待って!  
そこにシヤンテがっ  
お願いっせめて  
ここにいさせて...



ポッ

ルル  
ポッ  
ルル



そんなっ：  
飲み込まれて：

ビクッ

ジゅん

グちゅ

シヤンテは  
私を庇って  
死んだのに



この化物は私を  
殺すつもりで  
飲み込んだのに

あつあつ  
止まらな...

お尻っ  
そこ違うう

私一人だけ  
頭がおかしい

ブルッ

めづい

ググ  
ググ  
ググ

私一人だけが  
粘膜を擦られて  
快楽に敗けてる

ひきやあー!!

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

私だけバカじゃん  
そんなの……!

ズッ  
ズッ

惨めだよ……

やだ……もう気持ち  
いいの嫌だ……

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ



ギョッ

あつ!?  
駄目っ!?

何でっ  
乳首関係  
ないよっ!?

ギョ

おぼっ

ギョ



ブエッ!?

ギョッ



ギョッ

はいらないからさっ

ビビッ

クハッ

ギョッ

ビビッ



ほれま...

助けて...

ドブ

ガク

あふ...

あふ...

ガク

ガク

ガク

ガク

そこ違うう...  
乳首壊れ  
ちやうからあ...



助けて...

あ...

ボクッ

ボクッ

あ...

ずちゅの

ずちゅの

あ...

あ...



シヤンテ  
助けて…

ブルッ

ズチャッ

ピンッ

ピンッ

つぎッ

しゅっ

ドド

ドチャッ

ドチャッ

ドチャッ

ブルッ

ド

ガッガッ



今度は本当なの！  
本当に怖いの！

ドクンッ

ドクンッ

ズンッ！

こんな所に  
一人にしないで！



飲み込まれてから  
どれ程の時間が  
経ったのだろう…

私が出れることと言えば  
快楽に悶えてビクビクと  
身体を震わせるだけ…

それでも…  
時折少しだけ責めが  
軽くなった時だけ  
私は正気でいられた

その時間で私はようやく  
シヤンテとの会話を  
思い出すことが出来た

くっぴり

ん

ん

ん

あう…

その日は珍しく  
シヤンテが深酒じて  
口を滑らせていた

レマデ

「たまたま同じ依頼を  
受けて私のギルドと  
協力したその帰り…」



「マジマジ」

「魔術師ウチにいない  
から困ってたんだ！  
このまま入団しなよ」

「団長もいいよね！  
決定！よろしく！」

それがシヤンテには  
とても嬉しかった  
らしく

私は思わず  
「そんなことで？」  
と言ってしまったが



「そんならうど。」



54  
ニハハハ



やっと思い出した

でもおしや  
すぐに  
忘れちゃう



ズツ

おっ  
おっ  
入るよ...

もう心が  
持たないんだ

おし  
せな...

おっ

ハッ

ムッ

おっ  
おっ  
おっ

もうさうさうおね...?

来るか分からない  
助けを待って  
いつまでも  
耐えられない

毎日気持ちよく  
されちゃって...  
とっくに身体は  
屈してるの...

もう諦めよう

そうすれば  
何も辛くは  
なくなる

ブルン

くぽ

くぽ

キン

くぽ

キム

くぽ

くぽ

くぽ

もういいよね  
シヤンデ

くぽ

もうっかして  
もう少しだけ  
我慢するから

くぽ  
くぽ  
くぽ  
くぽ  
くぽ



もう少しだけ……  
もう少しだけ……  
頑張った……

181'21'59

**END**



鉄槌の女戦士

魔物に負ける妄想  
死しぬより酷い目にあう

